

報告事項ア

平成25年度第1回鳥取県学力向上戦略本部会議の概要について

平成25年度第1回鳥取県学力向上戦略本部会議を開催しましたので、その概要について報告します。

平成25年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度第1回鳥取県学力向上戦略本部会議 報告

日時：平成25年5月22日（水）9：00～11：35

場所：県立図書館大研修室

出席者：委員11名

1 角屋座長より助言メッセージ

鳥取県の小中学校は全国学力学習状況調査の過去の結果を根拠とすると（昨年の抽出結果については、一過性のものかどうかの分析は必要）、基礎学力は充分ついている。よって、鳥取県がとるべき学力向上の施策は、他県が実施しているような「学力点数向上」施策ではなく、「人間的豊かさ」を求めるさらに一步進んだ学力向上策である。

そのポイントは2点

①自己の向上に視点をのこした授業改善

②自らの生き方在り方を考える教育

①を支えるためには、自己の目標と到達度を自分自身が認識できるようなメタ認知が必要。決して、学力点数や学習時間だけに偏った把握であってはならない。

②を深めるためには、あこがれの大人として鳥取県・日本・世界の偉人や、プロとしての職業人について家庭でも学校でも共有できるようようなしかけなどが必要。

学力の指標については、点数のような量的指標とともに、質的な指標が必要。質的指標とは、たとえば、子どもたちの表現力のすべを把握するためのアンケートを家庭や学校で実施し、共有するなど。

最終的に、大学に何人入ったかという進路指導だけに終始せず、「目指すべき自分の姿」に対して、持続する学習意欲が何よりも重要。

鳥取県は、学力向上について県全体での取組に歴史がある。是非、この会で未来に生きる子どもたちのための方策を具体的に提案していきたい。



2 講演「社会的自立と学力向上 ―キャリア教育の視点から―」

筑波大学 人間系 教授 藤田 晃之 氏



○データが示す日本の子どもの「学力」

○日本の教育のほんとうの危機

- ・学びに対する興味関心の希薄さ
- ・将来との関連性が見えないままの学び
- ・「実感のない学び」に苛まれる日々
- ・受験終了後に剥落する「知」の危険性

○学力とは？

- ①基礎的な知識・技能
- ②活用するための思考力・判断力・表現力
- ③主体的に学習に取り組む態度（＝学習意欲）

○学習意欲の向上とキャリア教育を通じた社会的自立

3 意見交換

【目指す力】

- ・大学に何人入ったかという進路指導だけに終始せず、持続する学習意欲が何よりも重要。
- ・学力向上の鍵は「子どものたちの主体性」である。
- ・入試の現実を受け入れ、進学指導ではなく進路指導にどう取り組むかが重要。
- ・キャリア教育は小学校でも必要。内発的意欲・人間性の基盤を育てたい。
- ・地方の生徒は合格できる学校を選びがちな傾向にあるので、挑戦する姿勢をつけてほしい。

【教師の指導力】

- ・子どもたちの実態把握が、次の支援・指導にとっても重要。教員の知恵と工夫が求められる。
- ・特別支援教育の個に応じた指導・配慮は、すべての子どもたちに通じるどころ。
- ・教師は、時間的ゆとりのもと生徒たちと向き合ってもらいたい。
- ・自らが学びを求めるようなしなやかな姿勢のもと、「教えない教育」も必要。

【学力向上に必要な施策】

- ・鳥取県がとるべき学力向上の施策は、他県が実施しているような「学力点数向上」施策ではなく、「人間的豊かさ」を求めるさらに一歩進んだ学力向上策。
- ・中学校は、小学校と高校をつなぐ要。今後は中高の連携を深める必要が有る。
- ・意欲や思考力などを可視化できる学校づくりや、県全体の合意形成が重要。
- ・本県では、優秀な人材が多く流出している。この実態のもと、人材育成に力を入れている。

【家庭・地域】

- ・「勉強すれば人生の可能性が広がる」ことを、私たち大人が伝えたい。
- ・自立していくためには、生まれたときからの家庭や地域の働きかけが重要。
- ・学力を支える土台の一つが家庭。子どもたちを応援する家庭として取り組んでいきたい。
- ・公民館館長としては、生活の場すべてが学びの場。地区公民館の役割を果たしたい。

【学力の指標】

- ・点数のような量的指標とともに、質的な指標が必要。
- ・現場の教員と現状をしっかりと共有しながら取り組みたい。

4 講演者コメント

- ・「実態をとらえること」が鍵。
- ・日本の地方では、優秀な人材が多く流出している。
- ・一方、私たち大人はどれだけ鳥取のすばらしさを伝え切れているか？
- ・教師として、「自分の言葉で、知のすばらしさを伝えているか？」
- ・地域のおじさんおばさんとして、
「鳥取にはこんなすばらしさがある！なぜ地域が大切か？なぜ家族が大切か？・・・」
を伝え切れているか？
- ・すばらしさを知った子どもたちは、たとえ都会に流出しても、ある時期に「すばらしいふるさと鳥取に帰ろう」と、帰ってくるはず。たとえば30歳で帰鳥した方からは、それまで身につけたビジネスノウハウも含めて鳥取へ帰ってくることになる。
- ・子どもたちが、何を知っていて何を知らなかったか・・・の実態を十分に捉えることで、大人が伝えるべきことが見えてくる。

5 今後の予定

【本部会議】

8月 : 学力指標の提案・議論

9～10月 : 部会中間報告、全県的視点で今後の取組について

1月 : 部会報告、全県的視点で来年度取組具体案について

【小中学力部会・中高学力部会】

4回開催（6・7・9・12月を予定）